



発行：小網代ヨットクラブ

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

Tel 080-9571-4663

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

小網代通信

2019年5月号 VOL-251

今月の内容

- | | | |
|---------------------------------|--------------------|--------|
| ・連絡事項 | 編集委員 | 1ページ |
| ・「係留索の浮き上がりトラブルについて」 | 三浦 征幸(ハーバー整備管理委員長) | 2ページ |
| ・「平成から令和へ GW 連休ディープな東京湾クルーズ・・・」 | 衣笠 グループ | 3~5ページ |

連絡事項(編集委員)

1. < 5月1日 平成から令和に！ 10連休になられた方も・・・ >

天皇陛下の御代替わりにより元号が令和になりましたが、その間の4月27日から5月6日まで連休となった方々も多く、この休日を使ってクルージングに出られた艇も多かった様です。しかし、ゴールデンウィークには、昔から5月嵐(May Storm)が必ず1つ以上は通過する、と言われている通り今年の連休中も、気温差が大きく、突然の雨や曇が落ちたりと、予測ができない天気にも悩まされました。そんな中で、近場のクルージングを楽しんだり、遠出をされた艇の皆様、航海の様子はいかがでしたでしょうか？何か新発見がありましたか？どんなお話でもお聞かせください。投稿をお待ちいたします。今回は、「衣笠」の東京湾のディープなクルージングを3ページに掲載いたしました。



2. < 自艇の係留索のチェックのお願い >

干満差が大きい大潮などで“もやい”が浮いてしまい、他艇の出入りの妨害をすることが頻繁に起こっています。ハーバー整備管理委員会の三浦委員長よりトラブル防止の方法について各艇にお知らせがありますので、是非2ページの「係留索の浮き上がりトラブルについて」をお読みになり、自艇の係留索のご確認をお願いいたします。

3. < KYC 総務委員会に新メンバー2名 >

総務委員会では、会計担当の(スピリットオブウキョウ)望月常次氏が今期で担当から退かれる為、会計を担当していただく方を探しておりましたが、(衣笠)鈴木深志氏がその任についていただけることになり、引継ぎをしていただきました。12月までは望月氏のサポートを受けながら活動していただきますが、クラブからの請求及び振込に関しては鈴木(深)氏からとなります。また、事務局の書記業務を事務局長の補佐として(GULL)松本浩平氏にお手伝いしていただくこととなりました。4月より新メンバーの参加で総務委員会を運営しています。皆様よろしくお願ひいたします。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 5月20日(月)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2019.5月号-1

初夏の風が吹き、ヨットシーズンを到来とともに、強い南よりの風が湾内に入るようになりました。最近、南の強風の時、艇の係留索が浮き上がり、列間の通行の妨げになってトラブルが発生しています。

【状況】

列の奥に入る艇が列間を通行する際に、通路前後の艇の係留索が浮き上がっていると、通路が海中の係留索で「通せんぼう」状態になってしまいます。係留索にキールが引っかかってトラブルになったり、明らかに通れない場合は、別の列から入って、ようやく自艇の位置に到着している例も見受けられます。

【事態】

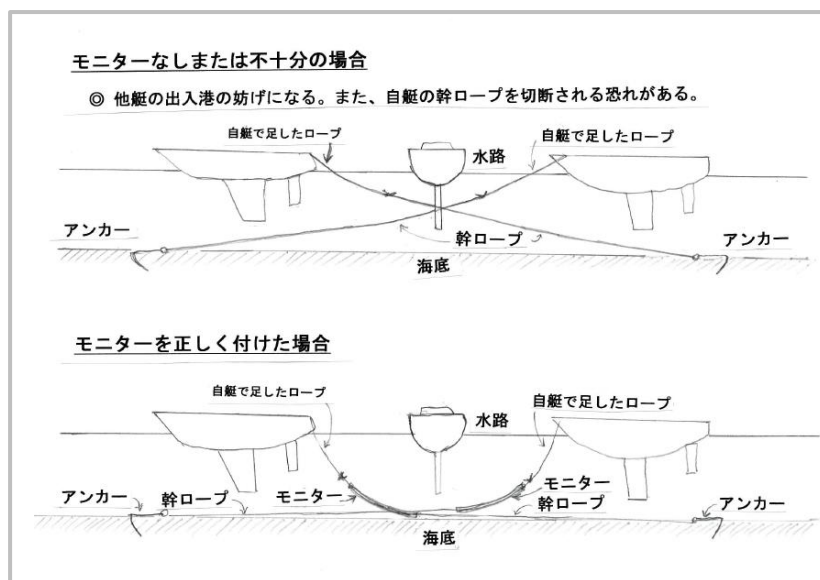
結果的に通過艇は、浮き上がった係留索にキールやラダーが引っかかり、動きがとれなくなり、強風下では流されて付近の艇に接触する事態になりかねません。

【損傷】

浮き上がっていた係留索のペラへの巻き込み、係留索の損傷。通過艇の方は付近の艇との接触艇体破損、ラダー、キールプロペラ損傷、ライフライン損傷、マストのリギントラブル等など、当該艇だけでなく付近の艇にも損傷を与える事態になりかねません。

【原因】

モニター不十分による係留索の浮き上がりが大元の原因で、通行艇の通路を妨げていることにあります。(図 上の状態)



【海中での観察結果】

モニターの現状(ダイバーからの報告)は、モニターチェーンがやせ細って軽くなっているもの、溶けてなくなっているもの、係留索への固縛策が外れて落ちたり、チェーンがロープから外れて垂れ下がってしまっているもの、係留索への結びが不十分で、取り付け場所からずれて海底までずり落ちてしまっているもの、更にもともとモニターをつけていない様子のもなど見られます。

要するにモニターは付いてはいても、経年変化でモニターとしての効果が薄くなっているものが多いようです。

【各艇へのお願い】

自艇の係留索にモニター用チェーンを付けて通路部分のロープを沈めること、そして各艇がモニターを定期的に点検して、異状があれば事前に対処しておくことが基本です。(図 下の状態)

自艇の係留索が強風下で浮き上がって通路の妨げとなっていないか？ 他艇から浮き上がりについて苦情が来ていないか？ など自艇の係留索のモニターの状態の再確認をお願いします。

異状があれば上述のような問題が生じないように事前対処をお願いします。

【モニター用チェーン】

チェーンは自己調達でも結構ですが、クラブに買い置きがありますので、必要でしたらご利用ください。

通常 1.5m使用=3,000 円 (mあたり 2,000 円)【ハーバー整備管理委員長 三浦 まで】

- ▶日頃から定期的に管理されている艇がほとんどだと思いますが、季節の変わり目、お互いの艇で再チェックをお願いします。

以上

平成から令和へ GW連休のディープ東京湾クルーズ・・・

衣笠 グループ

小網代がホームポートの衣笠は毎年この時期の連休にあちこちへ出かけるが、今回は4、5日の東京湾クルーズを決行した。

これは年金生活爺さんたちが“命の洗濯”を楽しんだというレポートだ。

まずは、少し東京湾についての御託を並べる。

本州太平洋側のほぼ中央にある南北に長い東京湾の距離はおよそ40マイルほどある。(東西の幅はおよそ7、8マイルくらい) 東に房総半島、西に三浦半島の二つの半島に挟まれ、それぞれいずれも付け根には千葉と横浜という関東の主要都市がある。もちろん北には言うまでもなく日本の首都があり、その湾内は国内で屈指の海上交通ラッシュだ。

大まかには剣崎と洲崎を結んだ線内の浦賀水道へ入れば東京湾だが、房総半島側の富津岬と三浦半島側の観音崎とを結んだ線の北側がどうやらディープ東京湾と言えそうだ。

三浦半島の西側を拠点にしている我々小網代のヨットたちは、相模湾を南下もしくは横断セーリングで、伊豆七島や伊豆半島へ舳先を向けることが多い。

比較的三浦半島の先端辺りをホームポート——小網代やシーボニア、油壺、諸磯など——としているヨットは東側の対岸ともいえる房総の館山やその近辺へデイクルージングもしくは一泊の航海を楽しんでいる仲間も多い。

しかし相模湾で遊ぶ我々は北側のディープな東京湾へ艇を走らせて遊びに行くことが稀である。

反対に東京湾の奥地から広い太平洋へと憧れを持って遊びに出てくる艇は多いようだ。我々衣笠もご多分に漏れず殆どディープな東京湾へは帆を上げたことがない。

ということでいわば小網代の田舎者が都会見物へ向かう体で舳先を向けることにした。

前置きはこのくらいにして出航しよう。

横浜ベイサイドマリーナへ・・・

4月28日(日曜)の朝に集まり数日分の“生活必需品”を積み込み、午前10時ころ小網代の舳を外した。城ヶ島沖を通過するころから予報通り北風が18ノットから19ノット吹き出しフルメインと No4ジブ(ファーリングできる)でこの時期にしては少々寒いが快適なセーリング。

このNo4のジブセイルはタックから1mほどペンダントを付けたのでフットが上がり、前方の視界がとても良くクルージング航海に最適なヘッドセイルである。

まず目的地は事前に停泊予約をしておいた横浜ベイサイドマリーナ(距離はおよそ25マイル)である。

東京湾の航路へ入らないようにタックを繰り返しながら北上し、およそ午後3時ころベイサイドマリーナのゲストバース(ポンツーン)へ舳をとる。



出港時の城ヶ島沖



横浜ベイサイドマリーナの衣笠

せっかく心地よく停泊させてもらいながら文句言うのも悪いが料金が安い。近年、なにもこのハーバーに限ったことではないが、利用料金が高額になって来たところが多いように感じる。もう少し気軽に利用できる泊地を望むセーラー達も多いはずだ。

愚痴はともかくまずはここでセーリング仲間の訪問なども受け、酒量も少しずつ上がり夜も更けたので消灯。

飛行機の轟音下を・・・

29日(月曜)はさらなるディープ東京湾をめざし午前9時ころベイサイドを離れる。

皆無ではないがほぼ未知の東京湾海域は興味津々。特に対岸の景色は普段の相模湾とは全く違った眺めだ。あれは何々、あそこにあれがある、と海から観る都会の景色をお上りさん気分さながらの北上を続ける。



羽田沖の飛行機

アクアラインの風の塔を超えた辺りで左手には羽田空港が現れ、この観光クルーズは最高潮に達した。ひっきりなしに離着陸を繰り返す怪鳥のごとき旅客機の群れ。滑走路がいくつもある空港へ飛び下り飛び立つ。その頻繁さは世界中の飛行機が全部ここに集合したかと錯覚するほどだ。

羽田沖を過ぎると次第に東京湾のどん詰まりに近づく。次の目的地は夢の島マリーナだ。

左手に若洲海浜公園、右手奥に葛西臨海公園に挟まれた水路は次第に水深が浅くなり、慣れない我々は少し緊張感で回りの景色談義もやや控えめになる。

水深計が4m切った浅瀬もなんとか通過し、荒川放水路の出口にかかる橋をくぐると左手に曲がる。

その先にある狭い水門は行き違い航路になっているため、通行用の電光掲示板に従い入港する。

夢の島マリーナも予め予約を入れておいたので、一番奥のゲスト用ポンツーンへ迎えに来てくれた係員の指示で無事着艇。

この日は朝から大体一日中曇り。明日はここに滞在することになったが予報は朝から夜まで雨という。



夢の島マリーナの衣笠

平成から令和へ・・・

そもそも夢の島マリーナに二日間というのは、搭載してきたインフレーターボートを下し、江東区の運河をめぐる計画があったのだ。

多分残念ながらその楽しみはお流れになるだろうと予想し、この日は陸地探検ということになった。

まずは、昭和生まれならご存知の方も多いが、木造のマグロ漁船「第五福竜丸」の展示館がマリーナのすぐ裏手にあったので覗いてみた。1954年に太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験により被害を受けた悲劇もさることながら、当時の木造漁船建造技術にひとしきり感心する。



第五福竜丸

その後徒歩でおよそ15分の新木場駅へ行き通称“モンナカ”と言われる門前仲町へ繰り出し、おいしい天ぷら屋さんを見つけて一杯。

東京湾クルーズでなければ味わえない特別な下町感があるご褒美に爺さんたちは満足。

さてスモールボートで運河めぐりがキャンセルになった翌日は、知らない間に年号が変わり巷ではラジオ、テレビの大騒ぎがあったようだ。

房総半島、バンヤへ・・・

5月1日(水曜)は水門出口の浅瀬も気になり潮の引かぬ早朝に出航し、今度は東側の房総半島へ向かうことにした。

本船航路を避けアクララインの橋をくぐり抜けた辺りから強かった風も程よくなり、雲も切れはじめ西の方には青空も覗く。

第一海堡と第二海堡の間を抜けると正面には浮島の影が見え始め、保田が近いことを教えてくれる。

早朝に出たおかげで昼の12時前に着艇できた。昨日の悪天候が今朝まで続いた影響か心配していた混雑はなく留められたのは幸いだった。

お決まりのバンヤで豪華な？昼食。風呂も入り、夜は艇内で自炊し遅くまでほろ酔い加減のおしゃべりはとどまることを知らず、今回のクルージング最後の夜を過ごす。

翌日は昼頃には小網代へ到着予定で出航する。



ようこそ “バー衣笠” です！

東京湾も走り方によっては多種多様な楽しみがあるような気がする。それにはもう少し気軽に停泊できるマリーナが増えることを期待する。特に富津岬より北側の房総寄りに水深面及び入港路で安心できる泊地が欲しいと思うのは我々ばかりじゃないだろう。

.....
【海歩き】 小網代湾奥、干潟がここまで広がっていました！

